

6003 (第 60 期 第 3 回) 男女共同参画推進委員会会議事録

日時：2004 年 12 月 4 日 (土) 13:00~17:00

場所：日本物理学会内会議室 (港区新橋 5-34-3 栄進開発ビル)

出席者：鳥養映子、延與秀人、井上順一郎、笹尾真実子、田島節子、肥山詠美子、
村尾美緒、安居院あかね、伊藤厚子、坂東昌子、八木江里 [職員 高島まり子]

欠席委員：板倉(中村)明子、潮田資勝、武田廣、平野琢也、福山秀敏

議長：鳥養委員長

議題：

I. 前回議事録の確認

II. 報告事項

1) 11/24 学術会議主催の公開講演会

延べ 250 名が参加した。出席者からいろいろな感想が述べられた。また、講演者の発言内容も紹介された。

2) 10/7 男女共同参画学協会連絡会設立 2 周年記念集会報告

参加者からいろいろな感想が述べられた。参加できなかった人には資料集を配布した。反省点としては次のような点が挙げられた。

1 ポスドク分科会においては、追加の話題提供もあり、議事進行にやや問題があったものの、活発な討論が行われ、関心の高さを印象付ける会であった。

2 全体に、若い人たちが少なかった。今後はもっと参加してもらえるようにしたい。

その他自由討論に発展した。

* ポスドクといっても雇用契約がいろいろあって、一律の身分ではない。自分の身分(契約)がどうなっているのかさえわかっていない人たちもおおぜいいることがわかった。ポスドクの出口(採用)をどうすべきかについて、物理学会で行ったアンケート結果をもっと活用してシステム化を図る必要がある。ポスドク分科会の報告では追記を書こうとしている。

* 研究者の環境分析委員会の分析結果(報告書)を生かすためにポスドクに関する委員会を立ち上げる必要がある。

* 育児・介護支援は男女とも利用できるようにすべきであり、男女とも取れる育児休業は有給化したほうがよい。

3) ハノイ会議の報告(鳥養)

日本からのこの会議への出席者は 70 名。総参加者のうち 15%が女性だった。

男女共同参画をテーマにした round table は日本が提案した会議であり、出席してよかった。男女半々位の割合で合計 60~70 名が出席。韓国で取組まれている「少女たちを物理に興味を持たせるための政策」が紹介された。韓国や中国と一緒に何かできる

とよいと思う、との感想も述べられた。

4) Web Forum の立上げ

作成者の、ネットコメンテーター安居院さんから、Web 上で討論ができるようにしたとの説明があった。使い勝手についての意見や改善案が出され、安居院さんに検討していただくことにした。

- * 複数の発言が見えるとよい。

- * 中心となる司会者のまとめかたが重要。

- * メールでのまとめと Web での発言の使い分けについて

等、改善案が出された。

III. 審議事項

1) 活動計画

(1) 物理学会第 60 回年次大会(2005 年 3 月)「物理と社会」シンポジウム

- * 井上委員より資料 2 の説明があった。

テーマではプログラム(4)の科学技術基本計画の改定 がメインになる。

黒田玲子さんは、依頼をしたが化学会の会期とダブるので返事待ち。

他にも講師の最終的お返事が未確定あり。

登壇者変更は、担当理事に了解を得れば可能、と言われている。

- * 司会は肥山、井上両委員で前半と後半に分ける。

- * 全員で写真を撮る。(来年の集会時のポスター用?)

(2) 科研費申請枠拡大初年度実施状況の調査について

- * 方針は出されたものの、実務として申請が可能かどうか、については各大学、研究機関によって異なるので、その実態を知りたい。調査を開始する第一段階として、委員の所属する各機関において構成員に通知された「科研費申請枠の拡大」に関する文書を入手したい、との提案が委員長より出された。この委員会でやるべきことだろうか、との疑問も出されたが、来週初めまでに委員長に FAX で知らせることにした。理事会の承認を得て物理学会員からの情報を集めたい、というのが委員長の意向。また、既に提出済みの「提言」のフォローとして調査の意味がある。

- * NPO 法人学術研究ネットを作っているがここに属する者も科研費を申請できるようにしたい。NPO を集めて要望を出すように、と言われている。

- * 大学によっては、ポスドクはプロジェクト研究に専念すべきであり、科研費に応募すべきではない、ということと言われる。

- * 科研費を受けている人は代表者だけでなく分担者でも研究者ナンバーをもらえない。

- * 学振の方針には疑問もあるので、次回の委員会に学振の担当者を委員会にお呼びして、疑問点を説明願ってはどうか? また、3月のシンポジウムに参加いただくとよいのではないか。

(3) IUPAP Women in Physics ブラジル会議

参加旅費について、理事会で1名分の予算が承認されている。数名で出席したいので助成機関にいろいろ応募したい、との委員長意向が述べられた。また、出席の可否について意思確認をしたい、との要請があり、委員長が下記の委員等の名前宛で既にIUPAPから取り寄せて用意してあった会議への招聘状を、出席者に配布し、検討をお願いした。

安居院、板倉、井上、延與、笹尾、田島、肥山、村尾

登録受付はこれから。応物学会と一緒に参加することを考えている。

(4) アジアパシフィック物理サミット会議（台湾）

2005年1月31日～2月2日開催。12/31参加申込締切。

物理学会から参加費用が支給される。

Women in Physicsに田島委員に参加していただけないか検討をお願いした。

(5) 2005世界物理年の取り組みについて

坂東前委員長より科研費を申請したとの報告があった。

これまでの経験では、ジェンダー分野への応募は通りにくい。また、基盤研究へは重複申請ができないので、基盤研究に応募しない委員に代表になっていただく必要があるなどの問題点が指摘された。申請枠の拡大により、名誉教授から申請してもらえる可能性がある、との意見が出された。

2) 今年度の活動方針の策定について

参加者全員が一人ずつ意見を述べた。

- * 科研費拡大のフォロー。（現実化されることを見届ける。）
- * ポスドク問題。
- * 単なる啓蒙活動ではなく、成果の見えることをやりたい。
- * 何を企画してもお金がかかる。科研費申請事務もそのひとつ。寄付金をあてにできないだろうか？
- * 「女性基金」というように目的を絞って寄付金を募ったらよい。
- * 教育の視点からの取組み。
- * 社会啓蒙
- * 情報を積極的に発信していきたい。
- * 「多様なキャリアパス」を視野に入れる方法はないか？
- * この委員会が身近に感じられるようにするための方法を考えたい。
- * ポスドクの身分保障問題を「提言」のフォローとして取組めるはず。
- * 教育問題は次期以降の長期的課題か？
- * 来春の年次大会におけるシンポジウムの宣伝をどのようにやるか？
- * ポスドク問題は放っておけない。大学・研究所だけに限ってはいけないだろう。多様なパスを作ることについて検討する委員会が必要。

- * 助手の任期問題等。
- * ポスドクの出口はこの委員会ではなく物理学会で取組むべき課題である。
- * 公募での年齢制限廃止。
- * 評価についてはこの委員会できちんと具体的に考える必要がある。
- * 高校で「女子生徒は文系向き」と決めつけるように差別的な扱いが行なわれている。高校教師の意識が問題。Work sharing は避けたい。
- * 教育現場に女性が具体的に乗り込んでいって指導する必要がある。
- * 高校生の問題に取り組むことはオーバーワークになると思う。

3)メール会議の方法について
報告事項4)を参照。

以上

次回会議候補日：2005年3月1日（火）、2日（水）、5日（金）の3日から、
皆さんのご都合を伺うことにした。

資料：

- 1) 前回（6002）会議議事録案
- 2) 第60回年次大会シンポジウム企画
- 3) AAPPS(2005.1)サミット会議
- 4) IUPAP Women in Physics in Rio
- 5) 国際交流基金日米センター一般公募助成事業申請書
『日米フォーラム「科学技術社会における男女共同参画を推進するために」』